



# 木曽川下流自然観察会

テーマ 「生き物の冬越しを見よう」

日時 2016/1/10 (日) 9:30~12:00 (晴)

参加者 一般：1名 (うち子ども1名)、指導員：5名

寒さの厳しいこの季節になると見られる虫の姿が減ってきます。しかし、越冬している虫もいますので、そうしたものを探ることとし、あわせて植物の冬芽を見て回りました。

まず、園内でコブシとハナミズキの冬芽を観察しました。これら枝には花芽と葉芽がついていますが、形状や大きさが異なりますので、両者は容易に区別できます。次にサクラの仲間の鱗芽を見て、芽鱗に毛がなく光沢のあるオオシマザクラと毛のあるソメイヨシノの違いがわかりました。

裸芽はアカメガシワを見ました。暖かい日が多かった成果、ずいぶん芽が伸びていました。

また、センダン、ニセアカシア、オニグルミで葉が落ちて枝に残った葉痕を見ました。葉が枝に付いていた部分の形状と維管束の痕によって、動物の顔のように見えます。最近ではポケット版の「冬芽ハンドブック」も出版され冬芽や葉痕の観察が便利になりました。

昆虫は卵、幼虫、蛹、成虫などさまざまな段階で越冬します。クスノキの葉の裏にアオスジアゲハの蛹がないか、また、常緑広葉樹の葉の裏に止まって越冬しているウラギンシジミがないかと気をつけて回りました。多くの参加者の目で探せば見つけれられるのではかと期待しましたが、隠れ方がうまいのか残念ながら見つけれませんでした。

高水敷に生えているエノキの根本では、落ち葉をめくって裏にゴマダラチョウの幼虫がいないかとさがしてみました。マルカメムシがいましたが、お目当てのゴマダラチョウの幼虫はここでは見つかりませんでしたので、他所で拾ってきた葉についた幼虫を見もらいました。落ち葉めぐりで幼虫を見つけるためには、秋のうちに幼虫が葉を食べている樹を確認しておくことが必要だと感じました。

落ち葉めぐりをした近くで、枝についたハラビロカマキリの卵嚢をみつけました。カマキリの仲間は卵で越冬します。

また、園内の太いエノキの幹には、ヨコヅナサシガメの幼体が集まり、黒い模様を呈していました。気温の変化が少ないところが越冬しやすいようで群は陽が当たる幹の南側より北側と西側に多く

見られました。ヨコヅナサシガメは外来の昆虫ですが勢力を伸ばしているようで、この頃ではよく見かけるようになりました。

この時期は樹木の葉が落ちて鳥が見やすくなります。先月、ツグミやシメがたくさん見られた高水敷では子どもたちが大勢で球技をしていましたので、野鳥の姿はほとんどありませんでしたが、少し上流側の草原ではツグミ、シメ、アオジ、ホオジロなどが姿を見せてくれました。(報告：齋竹)

<その他観察できたもの> 鳥：ヒヨドリ、カワヒラヒワ、キジバト、スズメ、モズ、ハシブトガラス、ダイサギ、カワウ、アオサギ、カシラダカ、メジロ (声)、ウグイス (声)、コゲラ (声)



(ハナミズキの花芽と葉芽)



落ち葉の裏の虫探し



(越冬中のヨコヅナサシガメ)